
ショートケーキを食べられるかどうか

よるきつね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ショートケーキを食べられるかどうか

【コード】

N3108M

【作者名】

よるきつね

【あらすじ】

とある昼下がりに。

少女は悠馬のいちごショートケーキを、期待するような瞳で見つめていた。

そんな少女を前にして、悠馬はショートケーキを食べることができだろうか。

さて　彼女を前にして、ケーキを食べることができだろうか？
悠馬ゆうまはお腹が空いていた。

日曜日の午後三時を過ぎたところ。三時というのは一般的にお菓子
子の時間と言われている、昼食が少なかった悠馬は、ぜひとも菓子
子を食べて空腹をしのぎたかった。

目の前のお皿には、いちごショートケーキ。

机の向こう側には、ショートケーキより可愛い黒髪の少女。

ちょうど悠馬の家に遊びに来ていた、幼馴染みの梓あすひだ。普段大人
しいこの少女は、うるうると潤んだ瞳で、何も言わずこちらを見て
いた。普段控えめなこの少女は、大好きなお菓子のことになるかと急
に自己主張し出すのである。

悠馬も鬼ではないのだが、どうしてもお腹が減っていたし、なに
より　彼女自身はすでに、出された自分の分を食べた後だった。
悠馬が見とれてしまうぐらい勢いのよい食べっぷり。ほっぺにちょ
こんとついたクリームが可愛い。

さておき。

梓が期待するような表情でこちらを見つめている。

さて、彼女を前にしてケーキを食べることができだろうか。悠
馬は意を決した。フォークを握り締める。

と、彼女の腰が椅子から浮いた。身を乗り出したような体勢で、
切なそうな瞳が悠馬を見ている。その表情に一瞬腕が止まったもの
の、悠馬はフォークをケーキに突き刺した。

瞬間。

泣きそうだった彼女の表情が、一点の曇りもない笑みにとってか
わった。

梓の足が宙に浮いた。テーブルにのせた腕を軸として、彼女の足
が弧の軌跡をえがく。とっさに悠馬はフォークから手を離すと、歯

を食いしばって腕を構えた。

鈍い衝撃。

視界が傾き景色は流れていく。悠馬は自分が椅子に座ったまま床に倒れようとしていることに気付いた。ガードした腕ごと梓に蹴りとばされたらしい。普段大人しい彼女はお菓子のことになると急に自己主張をしますのである。

悠馬は舌打ちした。

立ち上がらなければならない。迅速に。でなければ、せつかくのケーキを梓に食べられてしまう。

そんなことは許せなかった。

さて　彼女を前にして、ケーキを食べることが出来るだろうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3108m/>

ショートケーキを食べられるかどうか

2010年12月14日20時34分発行